

合い言葉は玲瓏同氣（本荘高校同窓会報「玲瓏同氣」第41号より）

学校は今、三大大行事、2学期中間考査が終わり、動から静への学期となった。後半戦である(10月1日発行)。生徒は右文に重きを移し、進路実現に向けて青く静かに持てるエネルギーを燃やしている。

本高に赴任して2年目、素晴らしい教育環境のもと、日々教育活動に専念できることに感謝している。1年が過ぎてもなお不安に思うところがあった。即ち、自分は玲瓏同氣の本質を理解しているのか。右文尚武は理解しやすい、質実剛健は人口に膾炙し、意味も明確である。それに対して、玲瓏同氣は別格、初めて目にする言葉であり、しかも説明が他の二つに比べて二倍と長い。玲瓏同氣を自分のものにして子どもたちに伝えよう、これが2年目の私の最初の目標であった。

玲瓏同氣は、玲瓏＋同氣であるのは間違いないようだ。玲瓏とは、宝石や金属が触れ合ったときのように、澄みきった美しい音を立てるさま。宝石のように、美しく澄みきっているさまを表す。創立年に定められた校章は「鳥海の霊峰白玲瓏たるに対するより清浄潔白を意味して」とあるから、玲瓏は創立と共にある言葉だ。さらに、同年5月28日の開校式にて一期生総代の抱負と決意の中に「この白玲瓏たる校章をいただき」があり、その後「金剛石もみがかずば 珠のひかりはそはざらむ 人もまなびて後にこそ まことの徳はあらはるれ」と歌われたとある。かくして、「玲瓏」と「人間性を磨く、人格を高める」の二つが深く結びつくこととなった。

また、同氣は、気のあった仲間、同胞を表す。こうして、本高の校標、玲瓏同氣とは、「金属や玉などが美しい冴えた音を奏でるよう、優れた者同士が切磋琢磨して、ともに人格を高めあうこと」となった。

玲瓏同氣の精神は創立とともにあること。本高教育の根本理念は人格を高める、すなわち人間性を磨くことにあると理解しました。

さらに追加。この校標は創立50周年の祝賀行事の中で決定されたものです。その当時の経緯を読むと、「玲瓏同氣とは本高職員・在校生・全ての同窓生が一致団結して協力し、今後の躍進への努力を誓うという合い言葉であり、精神的支柱であった」ように思います。すなわち、「同窓親和」。それだからこそ、本会報の名前になっているのだと理解しました。

本高の人間性の向上と団結を願った玲瓏同氣は最も古くて最も本高らしい学校目標と確信した次第。さて生徒にどうやって伝えようか。

今後とも同窓生の皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。